

ロータス東海の ちいらしっこ通信



今月のちいらしっこ語

小都市での定時制高校の副校長、教頭研修会に招かれて出掛けた。駅に村井さんという高校の先生が迎えに来てくれた。タクシーをホテルで降りるとき村井さんは、料金の領収書を受け取ったあと何枚かの硬貨を運転手さんに渡し、「ご苦労さま。少しですが」と言った。

研修会の後、懇親会で隣に座った村井さんが「タクシーのことですけれどね」と言った。

農家の三男だった村井さんは働きながら定時制高校へ通ったが、そこで昼間働きつつ学ぶ生徒の目の色を変えた意気込みに圧倒され、定時制高校の教員になろうと思ったそうだ。

大学入試センター試験の日、村井さんは会場へ行くバスを乗り間違え、会場から5kmも離れた場所へ降りてしまったという。通行人にそれを聞き、村井さんは走りだした。試験開始まで二〇分しかなかった。そのとき後ろからきたタクシーが横へとまり、「センター試験か？」と言った。うなずくと、「乗れ！」と叫んだ。

村井さんが乗ると「バスの行き先、間違いやすいようだな」と言っただけだった。村井さんはすぐ「実は、おカネないんです、あとでいいですか？」と聞いた。手元には帰りのバス代と地下鉄代しか残ってなかった。すると運転手さんは「そんなこと気にすんな」と言った。会場へ着くと運転手さんは「料金、俺からのプレゼントだ、がんばれよ」と言っただけで走り去ってしまったという。

村井さんはタクシー会社も運転手さんの名前もおぼえていたので、三日後に電話をした。電話に出た配車係の人が、近くにいるその名前の運転手さんに聞いてくれた。するとその運転手さんは一身に「おぼえはない」と言ったというのだった。話し終えて村井さんは微笑み、「私、人生観が変わりました」と言った。

（小樽山博）作家・理念と経営「くちびるに歌を持って心に太陽を持って」3年3月号



ロータス祭リンクUP

ハーリー



ハーリーとは元来、航海の安全や豊漁を祈願し、サバニと呼ばれる伝統漁船で競漕を行う行事です。

沖縄本島南部の糸満など「ハーリー」と呼ぶ地域もあります。ハーリーに使用する船は、爬龍船（はりゆうせん）船先に竜頭、艫に竜美尾の装飾がされています。那覇ハーリーでは数十名も乗り込む大型の爬龍船が使用されます。また、他の地域では沖縄の伝統的な小型漁船「サバニ」が使用されることがほとんどです。

その土地その土地によってハーリーの中身や編成も異なります。

【漕ぎ手】エークを持って力を合わせて漕ぎ、前へ進めます。

【鐘打ち】鐘打ちが鳴らす鐘のリズムに合わせて、漕ぎ手は

漕ぐタイミングを合わせます。

【舵取り】爬龍船の進行方向を操ります。レースのUターン時などは腕の見せどころです。

【旗持ち】船頭や舟上で旗を持ち乗船、掛け声とともに漕ぎ手の士気を高めます

沖縄では例年GWが過ぎた頃あたりに梅雨入りし、ハーリー鉦（かね）の音が響き渡ると梅雨が明け、本格的な夏が訪れるといわれています。

爬龍船競争はもちろん、ハーリー行事の一環としてライブ、角力大会なども同じ日に会場で行われることもあり

観光で来られた方ももちろん、地元の方も毎年楽しんでる行事です。

※受験を控えた学生が嫌いな野球選手って誰？ ⑤ ストーブにわたる人と宝石を買う人が同時に言う言葉とは？

